



山添町長と
みんな・みらい・みえるトーク
Vol.03

与謝野町の 持続可能な 公共交通体系の実現

与謝野町内の公共交通を担っている事業者、商業者、そして、10月2日から実証運行を開始した「予約型乗合交通」を担う地域協議会と配車予約システムを運営する事業者の5人の方をパネリストに迎え、「与謝野町の持続可能な公共交通体系の実現」をテーマに開催した山添町長とみんな・みらい・みえるトーク（以下、「町長トーク」）。

公共交通を担っている事業者の現状や課題は何なのか。また、予約型乗合交通を運営する地域協議会の思いとは。そして、人口減少や少子高齢化社会における持続可能な公共交通モデルについて、それぞれの立場で議論が交わされました。今月号では、第3回目となる町長トークの様子をお届けします。

☎ 総務課 43・9010



町 Youtube チャンネルでは、町長トークの全編、過去の様子もご覧いただけます

（山添町長）以下「町長」
人口減少・少子高齢化などの社会情勢の変化の中で求められるニーズは、多種多様であり複雑化しています。その中で公共交通は、最たる事項の一つではないかと考えています。時代の流れとともに、地域の公共交通を担っていただいている事業者の方、そして、新たに技術開発によってさまざまな提案をしていただける事業者の方と、地域の持続可能な公共交通のあり方を模索していきたいと考えています。



それぞれの立場で議論いただいた町長トーク

【テーマ①／みえる】

乗って守ろう

みんなの公共交通

（与謝野町地域公共交通の現状と課題）

（丹後海陸交通株式会社林取締役）

この2年間は、新型コロナウイルス感染症によって人の動きが少なくなったことに加え、観光客の流入がなくなり厳しい状況でした。最近では、インバウンド（外国人観光客）も増え、観光客が戻ってきています。例えば、7月の平日の天橋立では、スーツケースを持ったインバウンドの方がたくさん路線バスに乗っておられました。一方で、観光とは関係ない路線では、なかなか人の動きが戻ってきていません。

観光需要が戻ってきていますが、「原価高騰」「SDGs対応」「人材確保」の課題に直面しています。中でも人材確保の面では、現在、乗務員が約60人いますが、20歳代・30歳

バス・タクシーも高齢化が進み人材が不足している。魅力ある職場づくりが必要。

与謝野町内の主な公共交通

- 鉄道
(舞鶴市と豊岡市を結ぶ)
- 路線バス
(与謝野町を南北に縦断、隣の市町を結ぶ)
- 町営バス (コミュニティバス ひまわり)
路線バスが走らない地域を運行
- タクシーや福祉有償運送 など

代が2人ずつしかいません。50歳代・60歳代が全体の70%を占めており、10年後を想像すると、本当にぞっとするような環境です。弊社としては、バスの運転手が「魅力ある職業」であるということを伝えていくと同時に、待遇を良くしていく努力が必要だと考えています。

（日本交通株式会社川本取締役）

与謝野町エリアを担当する宮津営業

業所には、25人のドライバーが在職し、17台のタクシーがあります。本来、タクシー会社では、1台のタクシーに2人がついて運行するものですが、人が減り「1車1人」となりつつあり、効率が悪くなっています。また、ドライバーの減少は業績にも影響し、2019年と比較すると宮津営業所で約24%ほど売り上げが減少しています。

ドライバー減少の要因は処遇もありますが、一番は高齢化が進んでいることです。現在、ドライバーの平均年齢は約65歳で、宮津営業所で一番若いドライバーは40歳代前半です。高齢者のドライバーがコロナ禍を機会に、この業界から去ってしまった、地方部だけではなく都市部も含めてドライバーが不足しています。

しかし、京都市や大阪市などではインバウンド需要が戻りつつある中、タクシーの供給が追いついていません。このような中、京都府北部地域からも採用の問い合わせを受けていますので、この機会を逃さないよう、地域人材の確保に取り組んでいます。

（町長）「公共交通を担う人材が不足している」ということが共通して